

千曲市復興計画住民説明会③ 議事録（要旨）

○開催日時 : 令和3年1月22日（金）午後7時～8時15分

○開催場所 : 千曲市総合観光会館 大会議室

○出席者 : 小川市長
大内総務部長、島田市民環境部長、竹内建設部長、
齊藤経済部長、小林企業立地担当部長、荒川健康福祉部長、
中曽根次世代支援部長、滝沢教育部長、堀内議会事務局長

○参加者数 : 市民4名

1. 開 会

2. 市長あいさつ

（第1回説明会と要旨同様）

3. 千曲市復興計画（案）の説明

（第1回説明会と要旨同様）

（事前に配信した動画を使った計画内容の説明）

4. 質疑応答

（質問者①）

・千曲市では、仮設住宅などの住宅に関する支援はどうなっているか。積極的な支援を考えて頂きたい。

・雨水を貯留して治水対策をするということについて、ニュースで循環式の手洗いといったものを見た。新型コロナウイルスの関係もあり、消毒が困難な場合にも循環式の手洗いであれば何度も利用ができる。そういったものも検討して頂ければ。

(回答：建設部長・健康福祉部長・市民環境部長)

・市では住宅の応急復旧を進めてきた。これは工事業者と市が直接契約を結び、また修繕費用の助成をすることで被災された方のご負担を軽減するためのもの。なお、この事業は昨年12月までで受付を終了した。申し込みをされなかった世帯が二、三世帯あったが、何度もご連絡を差し上げた中で住宅再建はしないという意向を確認させて頂いた。

今回の災害で仮設住宅の建設はないが、県と協力し、教員住宅や県営住宅、民間アパートの借上げといった形で仮の住まいの提供をさせて頂いた。

発災直後の10月13日までは各指定避難所に避難された方が多かった。その後しばらくの間自宅に戻ることができなかった三世帯の方については、旧更埴庁舎の保健センターで生活して頂いた。これらの方は11月10日までに自宅へ帰られたため、特に仮設の住まい等は提供していない。

住まいの再建については、国や県による支援金や、市独自の支援金、見舞金をそれぞれの制度に基づいて支給させて頂いた。

被災住宅の取り壊しについては、今回は大規模災害であったことから、「全壊」「大規模半壊」「半壊」の判定があった世帯を対象に公費解体を実施した。所有者からの依頼に基づき、市が撤去処分を実施したものが10件。所有者自身が解体し、それに対して市が一定の助成をしたものが7件あった。

・千曲市では家庭に雨水の貯留設備を設置して頂いた場合に助成をしている。この設備は治水という面からも、側溝に流れる雨水の量を減少させることで浸水被害の軽減につながるもの。また、ご提案頂いた循環式の手洗いについても今後検討していく。

水のお話しに関連して、市内上下水道の状況についてご説明すると、今回の災害で水道が出ないということにはならなかった。また、下水道についても被災の二日後には異常がないことを確認している。

(質問者②)

・自宅の近くには女沢川がある。洪水による被害の軽減には河川を深くすることが一番の対策だと思う。信濃川水系緊急治水対策プロジェクト（以下、「治水プロジェクト」という。）の中で河道の掘削について記載があるが、女沢地区では大体何年度くらいに実施されるのか教えて頂きたい。

(回答：建設部長)

・治水プロジェクトでは、災害の復旧完了については令和3年度を目指している。これによって堤防や低水護岸の復旧が終了となる。並行して令和9年度までに河道掘削を完了したいというのが国の工程。

河道掘削については、千曲川の流れのネックとなっている「立ヶ花狭窄部(中野市)」

と「戸狩狭窄部（飯山市）」の掘削とバランスを取りながら進めていく。国もどこを掘削すると効率が良いか計算をしながら実施することになる。

2月以降、順次河道掘削が開始される予定だが、現段階で千曲市内のどこをいつ掘削するかは情報がない。現在招集中の国会で予算の審議が行われており、その中で色々と決まってくる。ただし、先ほど説明した通り、流域全体としての効率を計算しながらの掘削となるため、すぐに千曲市で実施されるかは分からない。

具体的な回答ができなくて申し訳ないが、篠ノ井橋付近から坂城町との境までの間がエリアとなっており、それを令和9年度までに実施するというのが現状分かっていること。

(質問者③)

・浸水調査について、上山田では女沢川周辺以外にも、力石地区でも大きな被害があった。今回調査したブロックの中に含まれていないが、浸水原因と対策についてどのように考えているかお聞きしたい。

(回答：建設部長)

・力石での浸水については、水門の開閉の関係があった。今回の解析は、霞堤や本堤防から溢れた水についてのシミュレーションとなる。そのため力石地区は検討の対象としなかった。

(質問者③)

・力石も忘れずに検討して欲しい。力石にも霞堤はあるし、水門についても大きな問題がある。床上浸水やビニールハウスの倒壊もあった。市として良く検討して欲しい。
・上山田は市庁舎から遠く、山と川で孤立している。災害時に農林課から職員が派遣されるとのことだが、大きな河川だけでなく小さな川や水門から被害を受けることもあるので、災害時の防災対策については地区独自で考えて欲しい。

(回答：経済部長・総務部長)

・水門操作については、今回の災害を受け、全面的に見直したところ。ただ、災害の時だけ備えるのではなく、日常の備えが大事というご指摘で、水門操作に限らず総合防災対策をしなければならないと考えている。

・防災計画については今回の反省を活かして進めていく。市役所の新しい窓口設置にあたっては、これまでの経過を知っているOBを含めた職員の配置を考えている。また、地域防災計画についての記載があるが、今後は是非地区で作って頂きたい。市でもバックアップするが、力石地区でも地区の方自らが災害時にどうするかを考えて頂きたい。

(質問者③)

・市に何でもお願いするのではなく、自分たちの地域は自分たちで守るという意識も

必要だと考えている。地域の安全を一緒になって守っていききたい。

(質問者④)

・浸水調査のブロックでは若宮地区となっているが、実際は戸倉温泉と上山田温泉の北部。戸倉温泉本通りの川側や上山田温泉本通りの両側は低くなっており、5年から8年に一度は水がつく。

荒砥沢川と温泉街の雨水幹線が合わさる所があり、その先が八王子の排水機場まで狭くなっている。この部分は県の管理ということだが、市と県の役割分担の中でしっかりと県に対してもお願いを続けていって欲しい。

・分水とはどういうイメージか。支川を作るとのことか。説明頂きたい。

(回答：建設部長)

・現在すべての水が八王子の方へ流れている。途中で流せる所があるならば支川を検討するし、調整池などの一旦水を溜めた後、もう一度本川へ戻していく機能を持った施設の整備も検討する必要がある。

(質問者④)

・以前、上山田文化会館のマンホールから水が吹き上がったことがあったがどういった理由なのか。これも千曲川へ排水できないことが理由か。

(回答：建設部長)

・千曲川の水位が上がると水門を閉める必要があるが、それを閉めずに逆流を生じさせてしまったのではないか。上流から来た水は温泉管を避けるためサイフォン形式で一旦下げてから再度上げている。それが文化会館の角にある。千曲川の水が逆流すると上流からいくら水を流しても流れなくなり、管が満杯となったと考えられる。

市でも折を見て土砂の除去を実施するなど工夫しているところ。

(質問者④)

・コロナウイルスの影響で温泉街も大分暗くなっている。コロナ後を見据えた支援もあわせてお願いしたい。

5. 閉 会